

1 正負の数(1)	章 1	制限時間 30分	合格点 80点	点
-----------	--------	-------------	------------	---

0より大きい数を正の数といい、+(プラス)で表します。 ※プラスはつけないこともあります。  
0より小さい数を負の数といい、-(マイナス)で表します。

数や温度を、(+ )か(- )をつけて表しましょう。(2点×10問=20点)

例 0より100大きい数 → +100	例 0より4小さい数 → -4
① 0より25小さい数 →	② 0より50大きい数 →
③ 0より0.1大きい数 →	④ 0より2.7小さい数 →
⑤ 0℃より5℃低い温度 →	⑥ 0℃より8℃低い温度 →
⑦ 0℃より20℃高い温度 →	⑧ 0℃より90℃低い温度 →
⑨ 0℃より4.6℃低い温度 →	⑩ 0℃より0.3℃高い温度 →

整数、小数、分数などの集まりを数全体の集合(しゅうごう)といいます。  
正の整数を自然数といいます。0は正でも負でもない数です。

次の中で、①~⑤にあてはまる数を全て書きましょう。(4点×5問=20点)

+7、-3.5、0、-20、0.5、4、+0.01、-100、15	
① 正の数 →	
② 負の数 →	
③ 正でも負でもない数 →	
④ 整数 →	
⑤ 自然数 →	

計算の答えがいつも正しいものに○、正しいとは限らないものに×を書きましょう。(2点×10問=20点)

例 自然数+自然数=自然数 ○	例 自然数-自然数=自然数 ×
① 自然数×自然数=自然数	② 自然数÷自然数=自然数
③ 整数+整数=整数	④ 整数-整数=整数
⑤ 整数×整数=整数	⑥ 整数÷整数=整数
⑦ 数全体+数全体=数全体	⑧ 数全体-数全体=数全体
⑨ 数全体×数全体=数全体	⑩ 数全体÷数全体=数全体

ある言葉を(+ )で表すとき、反対の言葉は(- )で表します。

[ ]内の言葉を(+ )として、次のことを(+ )か(- )をつけて表しましょう。(4点×5問=20点)

例 [収入] 1000円の収入 +1000円 2000円の支出 -2000円	① [利益] 3000円の利益 800円の損失
② [南] 300m北 400m南	③ [高い] 3.5℃高い 0.5℃低い
④ [後] 3.8秒前 2.1秒後	⑤ [上] 30cm上 15cm下

[ ]内の言葉を使って、次のことを(+ )か(- )をつけて表しましょう。(4点×5問=20点)

例 20個多い [少ない] -20個少ない	① -30m長い [短い]
② -23個少ない [多い]	③ 3kg重い [軽い]
④ 5cm高い [低い]	⑤ -3.5km北 [南]

<b>2 正負の数(2)</b>	章 1	制限時間 30分	合格点 80点	点
------------------	--------	-------------	------------	---

0からの距離を絶対値(ぜったいち)といいます。  
絶対値は、(+ )や(- )を除いた数になります。

絶対値をいみましょう。(3点×10問=30点)

例	+4	4	例	-3.8	3.8	①	+7		②	-15	
③	+100		④	-9		⑤	+0.2		⑥	-12.3	
⑦	$+\frac{2}{7}$		⑧	$-\frac{9}{2}$		⑨	$+\frac{2}{3}$		⑩	0	

正の数は、その絶対値が大きいほど、大きくなります。  
負の数は、その絶対値が大きいほど、小さくなります。

数の大小を、不等号で表しましょう。(4点×10問=40点)

例	-3	<	5	例	-6	>	-10	①	4	8	②	+3	+1
③	+2.5		+5.1	④	$+\frac{7}{2}$		$+\frac{9}{2}$	⑤	-15	-16	⑥	-10	-5
⑦	-0.1		-0.8	⑧	-5		+5	⑨	-3	+1	⑩	0	$-\frac{2}{3}$

絶対値が5になる数は、+5と-5です。  
絶対値が3より小さい整数は、-2、-1、0、+1、+2です。

問いに答えましょう。(5点×6問=30点)

例	絶対値が等しい2つの数があり、その差は10です。 この2つの数を求めましょう。	+5、-5 ( $10 \div 2 = 5$ )
例	絶対値が3より小さい整数は、 全部で何個ありますか。	5個 (-2、-1、0、+1、+2)
①	絶対値が20になる数を、すべていみましょう。	
②	絶対値が $\frac{3}{4}$ になる数を、すべていみましょう。	
③	絶対値が等しい2つの数があり、その差は8です。 この2つの数を求めましょう。	
④	絶対値が等しい2つの数があり、その差は20です。 この2つの数を求めましょう。	
⑤	絶対値が4より小さい整数は、 全部で何個ありますか。	
⑥	絶対値が5より小さい整数は、 全部で何個ありますか。	

# 3 数直線(1)

章  
1

制限時間  
30分

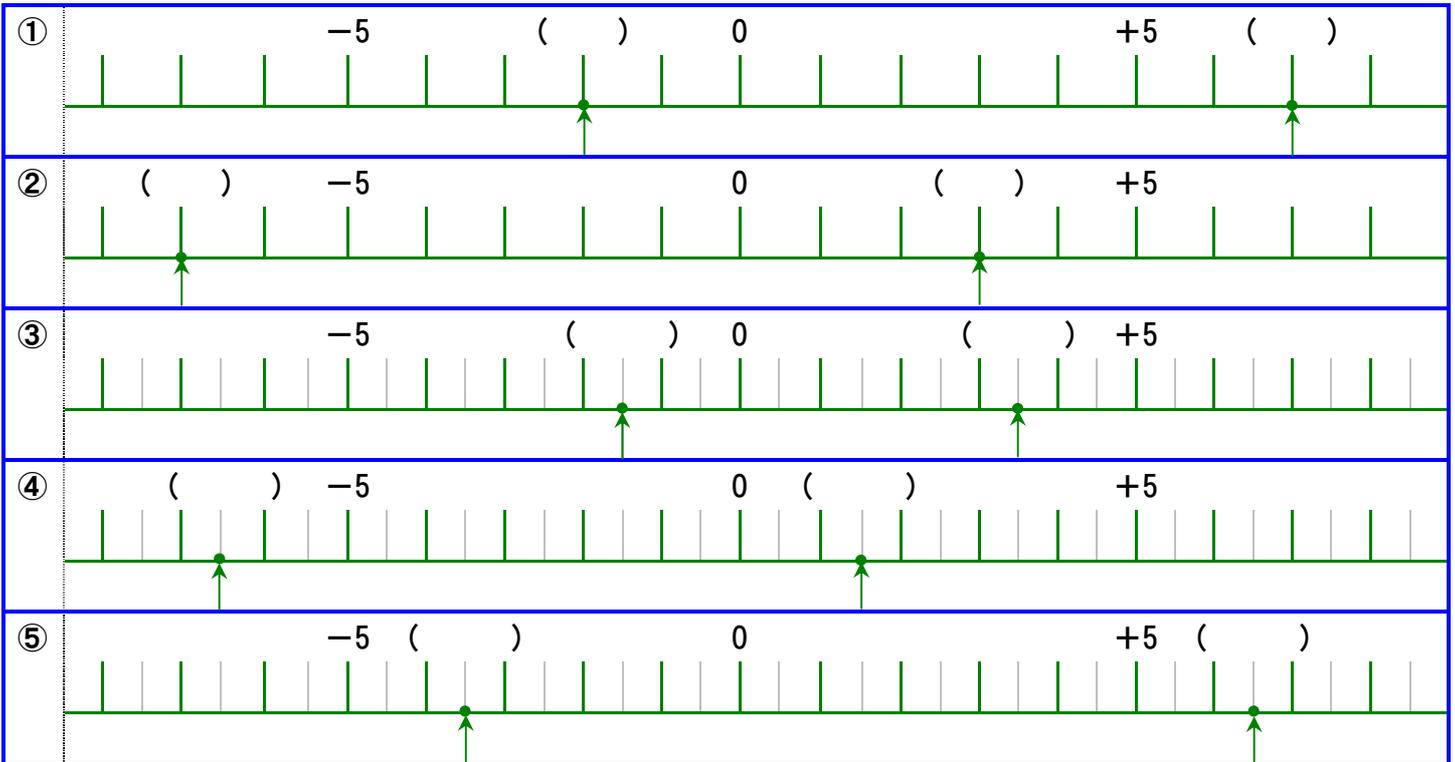
合格点  
80点

点

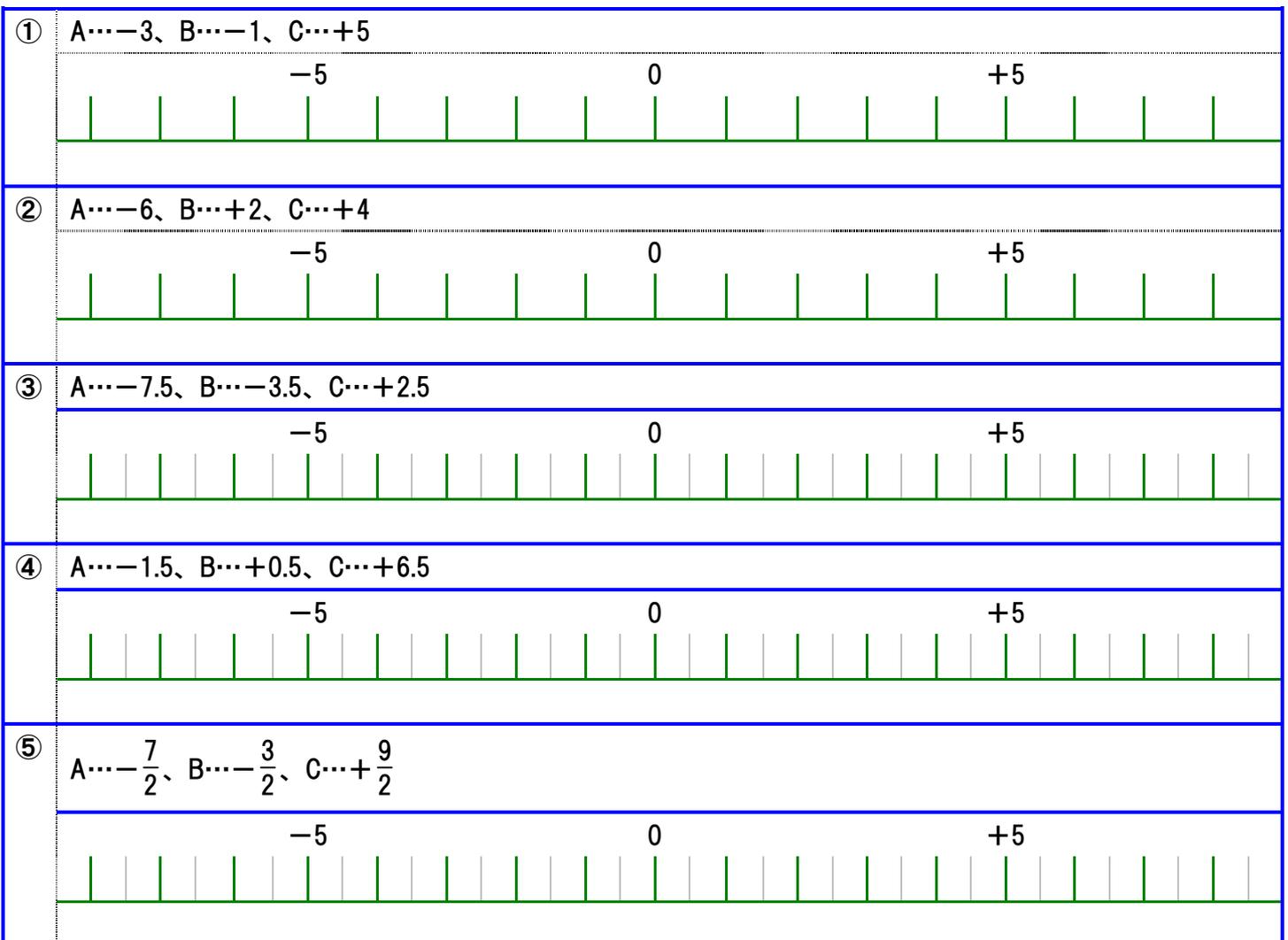
数直線では、正の数は原点(0)の右側に、負の数は原点の左側に表します。

数直線では、右に進むほど数が大きくなり、左に進むほど数が小さくなります。

( )にあてはまる数をかきましょう。(10点×5問=50点)



A、B、Cの数を、数直線上に表しましょう。(10点×5問=50点)



# 4 数直線(2)

章  
1

制限時間  
30分

合格点  
80点

点

数直線上では、大きい数は右に、小さい数は左に進みます。

(-)は、言葉を反対にして考えます。 -3 大きい=3 小さい    -3 小さい=3 大きい

数直線を使って、次の数を求めましょう。(5点×10問=50点)

<p>例 2より3大きい数 → (+5)</p>	<p>① 1より2大きい数 → ( )</p>
<p>② -5より4大きい数 → ( )</p>	<p>③ 4より2小さい数 → ( )</p>
<p>④ -1より3小さい数 → ( )</p>	<p>⑤ 0より5小さい数 → ( )</p>
<p>例 5より-1大きい数 → (+4)</p>	<p>⑥ 3より-5大きい数 → ( )</p>
<p>⑦ -3より-2大きい数 → ( )</p>	<p>⑧ 1より-4小さい数 → ( )</p>
<p>⑨ -2より-3小さい数 → ( )</p>	<p>⑩ 0より-4小さい数 → ( )</p>

数直線を使って、次の数を求めましょう。(5点×10問=50点)

<p>例 <math>2+3 \rightarrow (+5)</math></p>	<p>① <math>1+2 \rightarrow ( )</math></p>
<p>② <math>-5+4 \rightarrow ( )</math></p>	<p>③ <math>4-2 \rightarrow ( )</math></p>
<p>④ <math>-1-3 \rightarrow ( )</math></p>	<p>⑤ <math>0-5 \rightarrow ( )</math></p>
<p>例 <math>5+(-1) \rightarrow (+4)</math></p>	<p>⑥ <math>3+(-5) \rightarrow ( )</math></p>
<p>⑦ <math>-3+(-2) \rightarrow ( )</math></p>	<p>⑧ <math>1-(-4) \rightarrow ( )</math></p>
<p>⑨ <math>-2-(-3) \rightarrow ( )</math></p>	<p>⑩ <math>0-(-4) \rightarrow ( )</math></p>

<b>5 加法・減法(1)</b>	章 1	制限時間 30分	合格点 80点	点
-------------------	--------	-------------	------------	---

たし算を加法(かほう)といい、その答えを和(わ)といいます。

(+)(+)や(-)(-)は、絶対値の和に、(+)(-)をつけます。

例)  $(-3)+(-5)=-8$

(+)(-)や(-)(+)は、絶対値の差に、絶対値が大きい方の符号をつけます。例)  $(+3)+(-5)=-2$

計算しましょう。(3点×15問=45点)

例 $(+3)+(+11)=+14$	① $(+23)+(+13)$	② $(+0.7)+(+0.2)$
③ $(+3.4)+(+3.4)$	④ $(+\frac{5}{7})+(+\frac{1}{7})$	⑤ $(+\frac{5}{13})+(+\frac{6}{13})$
例 $(-3)+(-11)=-14$	⑥ $(-23)+(-13)$	⑦ $(-0.7)+(-0.2)$
⑧ $(-3.4)+(-3.4)$	⑨ $(-\frac{5}{7})+(-\frac{1}{7})$	⑩ $(-\frac{5}{13})+(-\frac{6}{13})$
例 $(+3)+(-11)=-8$	⑪ $(+23)+(-13)$	⑫ $(+0.7)+(-0.2)$
⑬ $(+3.4)+(-3.4)$	⑭ $(+\frac{5}{7})+(-\frac{1}{7})$	⑮ $(+\frac{5}{13})+(-\frac{6}{13})$

加法の順序を入れ替えても答えが同じになることを、**加法の交換法則(こうかんほうそく)**といいます。

加法をどこから計算しても答えが同じになることを、**加法の結合法則(けつごうほうそく)**といいます。

加法の式の1つ1つを項(こう)といい、(+)(-)の項を正の項、(-)の項を負の項といいます。

計算しましょう。(3点×10問=30点)

① $11+5$	② $5+11$	③ $(-8)+3$	④ $3+(-8)$
例 $(2+3)+4$ $=5+4=9$	⑤ $2+(3+4)$	⑥ $(10+7)+8$	⑦ $10+(7+8)$
例 $\{2+(-9)\}+5$ $=-7+5=-2$	⑧ $2+\{(-9)+5\}$	⑨ $\{5+(-3)\}+7$	⑩ $5+\{(-3)+7\}$

正の項と負の項に分けましょう。(5点×5問=25点)

例 $(-3)+14+5+(-11)$	正の項 → 14、5	負の項 → -3、-11
① $4+(-8)+10+(-11)$	正の項 →	負の項 →
② $0.4+(-0.2)+0.3+(-0.6)$	正の項 →	負の項 →
③ $0.1+(-0.5)+(-0.3)+0.8$	正の項 →	負の項 →
④ $\frac{1}{9}+(-\frac{2}{9})+\frac{4}{9}+(-\frac{7}{9})$	正の項 →	負の項 →
⑤ $(-\frac{3}{13})+\frac{4}{13}+(-\frac{5}{13})+\frac{2}{13}$	正の項 →	負の項 →

# 6 加法・減法(2)

章  
1

制限時間  
30分

合格点  
80点

点

ひき算を減法(げんぽう)といい、その答えを差(さ)といいます。  
減法を加法に直すとき、その後の項の符号が変わります。

計算しましょう。(4点×10問=40点)

例	$(-3)-(+5)$ $=(-3)+(-5)$ $=-8$	①	$3-(+2)$	②	$2-(+8)$	③	$16-(+9)$
④	$(-8)-(+4)$	⑤	$(-5)-(+9)$	例	$2-(-3)$ $=2+(+3)$ $=5$	⑥	$12-(-6)$
⑦	$2-(-4)$	⑧	$7-(-3)$	⑨	$(-5)-(-8)$	⑩	$(-15)-(-7)$

( )に合う言葉を書きましょう。(4点×5問=20点)

例	たし算を( 加法 )といいます。	①	たし算の答えを( )といいます。
②	ひき算を( )といいます。	③	ひき算の答えを( )といいます。
④	(+)の項を( )といいます。	⑤	(-)の項を( )といいます。

加法と減法の混じった式は、かっこのない式に直します。

かっこをはずすとき、加法の後の項は符号がそのまま、減法後の項は符号が変わります。  
かっこをはずしたら、正の項と負の項をまとめて、それぞれ計算します。

計算しましょう。(4点×10問=40点)

例	$8+(-6)-(+4)-(-5)$ $=8-6-4+5$ $=8+5-6-4$ $=13-10$ $=3$	例	$(-5)-(-1)+(-3)-(-4)$ $=-5+1-3+4$ $=1+4-5-3$ $=5-8$ $=-3$	①	$10+(-7)-(-2)-(+4)$
②	$(-3)-(-6)-(-1)-(+5)$	③	$8+(-9)-(+15)-(-3)$	④	$(-1)-(-2)-(-5)+(-4)$
⑤	$5+(-9)-(-2)-(+4)$	⑥	$10-(+3)+(-3)-(-12)$	⑦	$(-6)+4-(-8)+(-7)$
⑧	$(-1)-(-2)-(-4)+(-1)$	⑨	$23+(-4)+(-15)-(-20)$	⑩	$(-3)-(-4)-(-7)-(+1)$

<b>1 正負の数(1)</b>	章 1	制限時間 30分	合格点 80点	点
------------------	--------	-------------	------------	---

0より大きい数を正の数といい、+(プラス)で表します。※プラスはつけないこともあります。  
0より小さい数を負の数といい、-(マイナス)で表します。

数や温度を、(+)**か**(-)をつけて表しましょう。(2点×10問=20点)

例 0より100大きい数 → +100	例 0より4小さい数 → -4
① 0より25小さい数 → -25	② 0より50大きい数 → +50
③ 0より0.1大きい数 → +0.1	④ 0より2.7小さい数 → -2.7
⑤ 0°Cより5°C低い温度 → -5°C	⑥ 0°Cより8°C低い温度 → -8°C
⑦ 0°Cより20°C高い温度 → +20°C	⑧ 0°Cより90°C低い温度 → -90°C
⑨ 0°Cより4.6°C低い温度 → -4.6°C	⑩ 0°Cより0.3°C高い温度 → +0.3°C

整数、小数、分数などの集まりを数全体の集合(しゅうごう)といいます。  
正の整数を自然数といいます。0は正でも負でもない数です。

次の中で、①~⑤にあてはまる数を全て書きましょう。(4点×5問=20点)

+7、-3.5、0、-20、0.5、4、+0.01、-100、15	
① 正の数	→ +7、0.5、4、+0.01、15
② 負の数	→ -3.5、-20、-100
③ 正でも負でもない数	→ 0
④ 整数	→ +7、0、-20、4、-100、15
⑤ 自然数	→ +7、4、15

計算の答えがいつも正しいものに○、正しいとは限らないものに×を書きましょう。(2点×10問=20点)

例 自然数+自然数=自然数	○	例 自然数-自然数=自然数	×
① 自然数×自然数=自然数	○	② 自然数÷自然数=自然数	×
③ 整数+整数=整数	○	④ 整数-整数=整数	○
⑤ 整数×整数=整数	○	⑥ 整数÷整数=整数	×
⑦ 数全体+数全体=数全体	○	⑧ 数全体-数全体=数全体	○
⑨ 数全体×数全体=数全体	○	⑩ 数全体÷数全体=数全体	○

ある言葉を(+)**で**表すとき、反対の言葉は(-)**で**表します。

[ ]内の言葉を(+)**として**、次のことを(+)**か**(-)**をつけて**表しましょう。(4点×5問=20点)

例 [収入] 1000円の収入 +1000円 2000円の支出 -2000円	① [利益] 3000円の利益 +3000円 800円の損失 -800円
② [南] 300m北 -300m 400m南 +400m	③ [高い] 3.5°C高い +3.5°C 0.5°C低い -0.5°C
④ [後] 3.8秒前 -3.8秒 2.1秒後 +2.1秒	⑤ [上] 30cm上 +30cm 15cm下 -15cm

[ ]内の言葉を使って、次のことを(+)**か**(-)**をつけて**表しましょう。(4点×5問=20点)

例 20個多い [少ない] -20個少ない	① -30m長い [短い] +30m短い
② -23個少ない [多い] +23個多い	③ 3kg重い [軽い] -3kg軽い
④ 5cm高い [低い] -5cm低い	⑤ -3.5km北 [南] +3.5km南

<b>2 正負の数(2)</b>	章 1	制限時間 30分	合格点 80点	点
------------------	--------	-------------	------------	---

0からの距離を絶対値(ぜったいち)といいます。  
絶対値は、(+ )や(- )を除いた数になります。

絶対値をいみましょう。(3点×10問=30点)

例	+4	4	例	-3.8	3.8	①	+7	7	②	-15	15
③	+100	100	④	-9	9	⑤	+0.2	0.2	⑥	-12.3	12.3
⑦	$+\frac{2}{7}$	$\frac{2}{7}$	⑧	$-\frac{9}{2}$	$\frac{9}{2}$	⑨	$+\frac{2}{3}$	$\frac{2}{3}$	⑩	0	0

正の数は、その絶対値が大きいほど、大きくなります。  
負の数は、その絶対値が大きいほど、小さくなります。

数の大小を、不等号で表しましょう。(4点×10問=40点)

例	-3 < 5	例	-6 > -10	①	4 < 8	②	+3 > +1
③	+2.5 < +5.1	④	$+\frac{7}{2} < +\frac{9}{2}$	⑤	-15 > -16	⑥	-10 < -5
⑦	-0.1 > -0.8	⑧	-5 < +5	⑨	-3 < +1	⑩	0 > $-\frac{2}{3}$

絶対値が5になる数は、+5と-5です。  
絶対値が3より小さい整数は、-2、-1、0、+1、+2です。

問いに答えましょう。(5点×6問=30点)

例	絶対値が等しい2つの数があり、その差は10です。 この2つの数を求めましょう。	+5、-5 (10÷2=5)
例	絶対値が3より小さい整数は、 全部で何個ありますか。	5個 (-2、-1、0、+1、+2)
①	絶対値が20になる数を、すべていみましょう。	+20、-20
②	絶対値が $\frac{3}{4}$ になる数を、すべていみましょう。	$+\frac{3}{4}$ 、 $-\frac{3}{4}$
③	絶対値が等しい2つの数があり、その差は8です。 この2つの数を求めましょう。	+4、-4 (8÷2=4)
④	絶対値が等しい2つの数があり、その差は20です。 この2つの数を求めましょう。	+10、-10 (20÷2=10)
⑤	絶対値が4より小さい整数は、 全部で何個ありますか。	7個 (-3、-2、-1、0、+1、+2、+3)
⑥	絶対値が5より小さい整数は、 全部で何個ありますか。	9個 (-4、-3、-2、-1、0、+1、+2、+3、+4)

# 3 数直線(1)

章  
1

制限時間  
30分

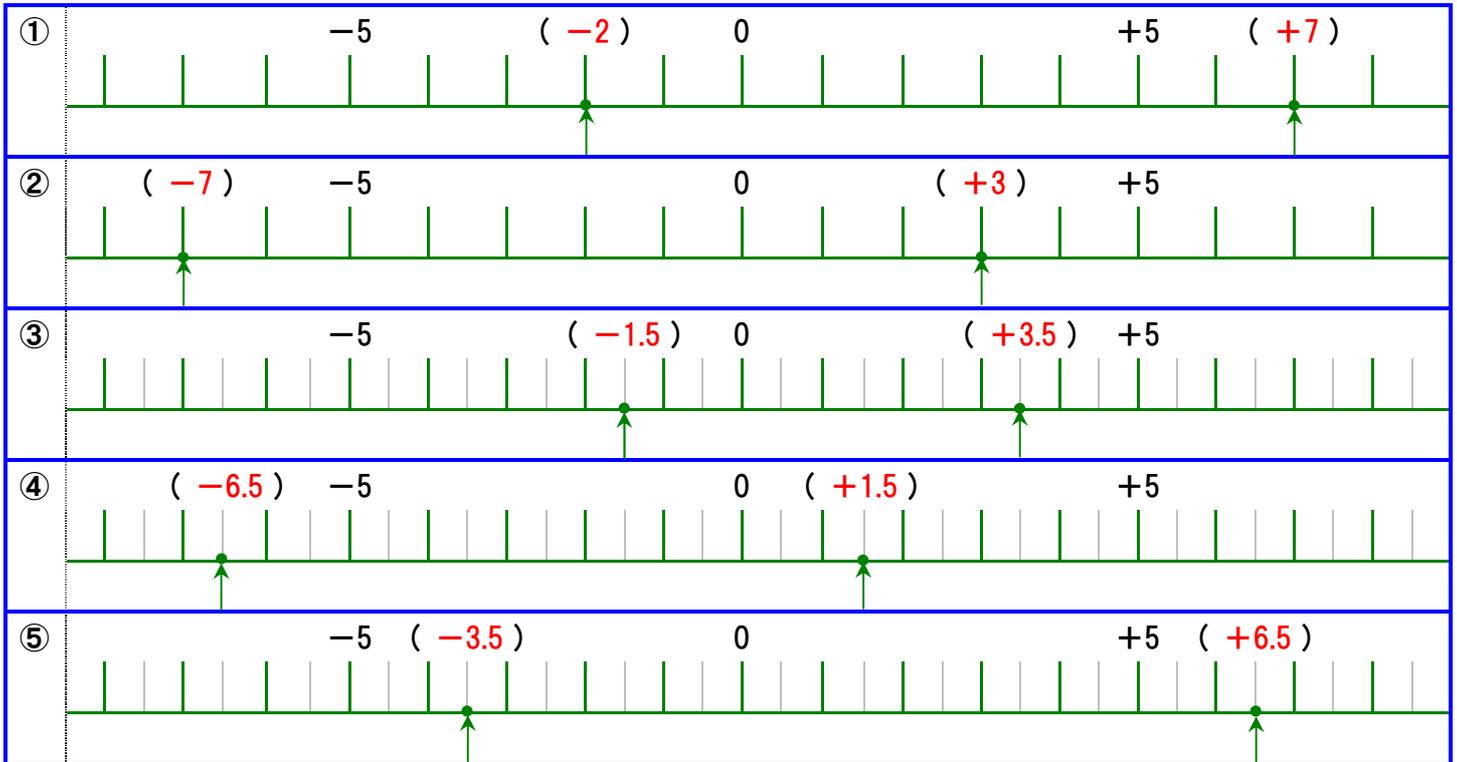
合格点  
80点

点

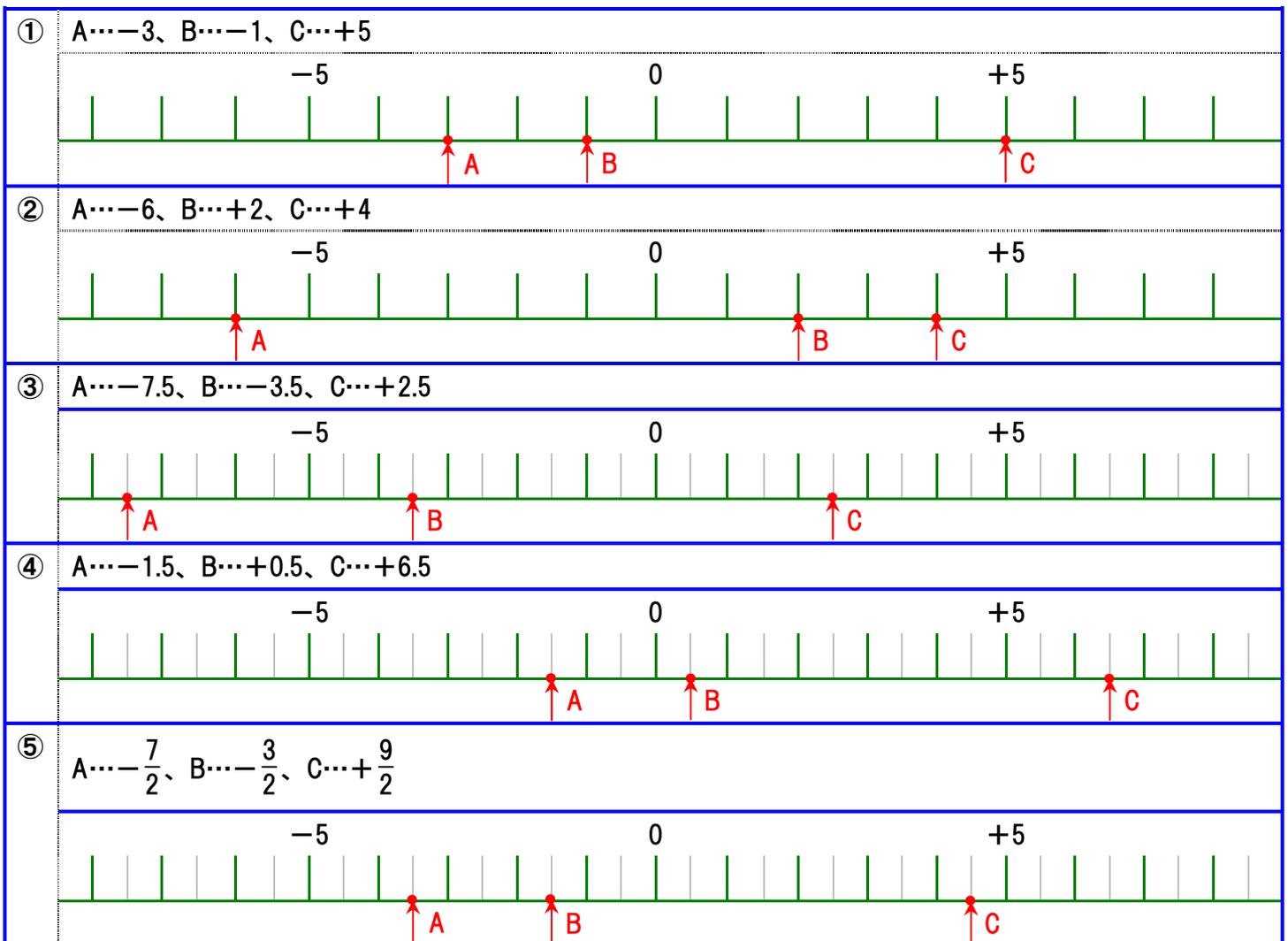
数直線では、正の数は原点(0)の右側に、負の数は原点の左側に表します。

数直線では、右に進むほど数が大きくなり、左に進むほど数が小さくなります。

( )にあてはまる数をかきましょう。(10点×5問=50点)



A、B、Cの数を、数直線上に表しましょう。(10点×5問=50点)



# 4 数直線(2)

章  
1

制限時間  
30分

合格点  
80点

点

数直線上では、大きい数は右に、小さい数は左に進みます。

(-)は、言葉を反対にして考えます。 -3 大きい=3 小さい    -3 小さい=3 大きい

数直線を使って、次の数を求めましょう。(5点×10問=50点)

<p>例 2より3大きい数 → (+5)</p>	<p>① 1より2大きい数 → (+3)</p>
<p>② -5より4大きい数 → (-1)</p>	<p>③ 4より2小さい数 → (+2)</p>
<p>④ -1より3小さい数 → (-4)</p>	<p>⑤ 0より5小さい数 → (-5)</p>
<p>例 5より-1大きい数 → (+4)</p>	<p>⑥ 3より-5大きい数 → (-2)</p>
<p>⑦ -3より-2大きい数 → (-5)</p>	<p>⑧ 1より-4小さい数 → (+5)</p>
<p>⑨ -2より-3小さい数 → (+1)</p>	<p>⑩ 0より-4小さい数 → (+4)</p>

数直線を使って、次の数を求めましょう。(5点×10問=50点)

<p>例 <math>2+3 \rightarrow (+5)</math></p>	<p>① <math>1+2 \rightarrow (+3)</math></p>
<p>② <math>-5+4 \rightarrow (-1)</math></p>	<p>③ <math>4-2 \rightarrow (+2)</math></p>
<p>④ <math>-1-3 \rightarrow (-4)</math></p>	<p>⑤ <math>0-5 \rightarrow (-5)</math></p>
<p>例 <math>5+(-1) \rightarrow (+4)</math></p>	<p>⑥ <math>3+(-5) \rightarrow (-2)</math></p>
<p>⑦ <math>-3+(-2) \rightarrow (-5)</math></p>	<p>⑧ <math>1-(-4) \rightarrow (+5)</math></p>
<p>⑨ <math>-2-(-3) \rightarrow (+1)</math></p>	<p>⑩ <math>0-(-4) \rightarrow (+4)</math></p>

# 5 加法・減法(1)

章  
1

制限時間  
30分

合格点  
80点

点

たし算を加法(かほう)といい、その答えを和(わ)といいます。

(+)(+)や(-)(-)は、絶対値の和に、(+)(-)をつけます。

例)  $(-3)+(-5)=-8$

(+)(-)や(-)(+)は、絶対値の差に、絶対値が大きい方の符号をつけます。例)  $(+3)+(-5)=-2$

計算しましょう。(3点×15問=45点)

例 $(+3)+(+11)=+14$	① $(+23)+(+13)=+36$	② $(+0.7)+(+0.2)=+0.9$
③ $(+3.4)+(+3.4)=+6.8$	④ $(+\frac{5}{7})+(+\frac{1}{7})=+\frac{6}{7}$	⑤ $(+\frac{5}{13})+(+\frac{6}{13})=+\frac{11}{13}$
例 $(-3)+(-11)=-14$	⑥ $(-23)+(-13)=-36$	⑦ $(-0.7)+(-0.2)=-0.9$
⑧ $(-3.4)+(-3.4)=-6.8$	⑨ $(-\frac{5}{7})+(-\frac{1}{7})=-\frac{6}{7}$	⑩ $(-\frac{5}{13})+(-\frac{6}{13})=-\frac{11}{13}$
例 $(+3)+(-11)=-8$	⑪ $(+23)+(-13)=+10$	⑫ $(+0.7)+(-0.2)=+0.5$
⑬ $(+3.4)+(-3.4)=0$	⑭ $(+\frac{5}{7})+(-\frac{1}{7})=+\frac{4}{7}$	⑮ $(+\frac{5}{13})+(-\frac{6}{13})=-\frac{1}{13}$

加法の順序を入れ替えても答えが同じになることを、**加法の交換法則(こうかんほうそく)**といいます。

加法をどこから計算しても答えが同じになることを、**加法の結合法則(けつごうほうそく)**といいます。

加法の式の1つ1つを項(こう)といい、(+)(-)の項を正の項、(-)の項を負の項といいます。

計算しましょう。(3点×10問=30点)

① $11+5=16$	② $5+11=16$	③ $(-8)+3=-5$	④ $3+(-8)=-5$
例 $(2+3)+4=5+4=9$	⑤ $2+(3+4)=2+7=9$	⑥ $(10+7)+8=17+8=25$	⑦ $10+(7+8)=10+15=25$
例 $\{2+(-9)\}+5=-7+5=-2$	⑧ $2+\{(-9)+5\}=2+(-4)=-2$	⑨ $\{5+(-3)\}+7=2+7=9$	⑩ $5+\{(-3)+7\}=5+4=9$

正の項と負の項に分けましょう。(5点×5問=25点)

例 $(-3)+14+5+(-11)$	正の項 → 14、5	負の項 → -3、-11
① $4+(-8)+10+(-11)$	正の項 → 4、10	負の項 → -8、-11
② $0.4+(-0.2)+0.3+(-0.6)$	正の項 → 0.4、0.3	負の項 → -0.2、-0.6
③ $0.1+(-0.5)+(-0.3)+0.8$	正の項 → 0.1、0.8	負の項 → -0.5、-0.3
④ $\frac{1}{9}+(-\frac{2}{9})+\frac{4}{9}+(-\frac{7}{9})$	正の項 → $\frac{1}{9}$ 、 $\frac{4}{9}$	負の項 → $-\frac{2}{9}$ 、 $-\frac{7}{9}$
⑤ $(-\frac{3}{13})+\frac{4}{13}+(-\frac{5}{13})+\frac{2}{13}$	正の項 → $\frac{4}{13}$ 、 $\frac{2}{13}$	負の項 → $-\frac{3}{13}$ 、 $-\frac{5}{13}$

# 6 加法・減法(2)

章  
1

制限時間  
30分

合格点  
80点

点

ひき算を減法(げんぽう)といい、その答えを差(さ)といいます。  
減法を加法に直すとき、その後の項の符号が変わります。

計算しましょう。(4点×10問=40点)

例	$(-3)-(+5)$ $=(-3)+(-5)$ $=-8$	①	$3-(+2)$ $=3+(-2)$ $=1$	②	$2-(+8)$ $=2+(-8)$ $=-6$	③	$16-(+9)$ $=16+(-9)$ $=7$
④	$(-8)-(+4)$ $=(-8)+(-4)$ $=-12$	⑤	$(-5)-(+9)$ $=(-5)+(-9)$ $=-14$	例	$2-(-3)$ $=2+(+3)$ $=5$	⑥	$12-(-6)$ $=12+(+6)$ $=18$
⑦	$2-(-4)$ $=2+(+4)$ $=6$	⑧	$7-(-3)$ $=7+(+3)$ $=10$	⑨	$(-5)-(-8)$ $=(-5)+(+8)$ $=3$	⑩	$(-15)-(-7)$ $=(-15)+(+7)$ $=-8$

( )に合う言葉を書きましょう。(4点×5問=20点)

例	たし算を( <b>加法</b> )といいます。	①	たし算の答えを( <b>和</b> )といいます。
②	ひき算を( <b>減法</b> )といいます。	③	ひき算の答えを( <b>差</b> )といいます。
④	(+)の項を( <b>正の項</b> )といいます。	⑤	(-)の項を( <b>負の項</b> )といいます。

加法と減法の混じった式は、かっこのない式に直します。

かっこをはずすとき、加法の後の項は符号がそのまま、減法後の項は符号が変わります。  
かっこをはずしたら、正の項と負の項をまとめて、それぞれ計算します。

計算しましょう。(4点×10問=40点)

例	$8+(-6)-(+4)-(-5)$ $=8-6-4+5$ $=8+5-6-4$ $=13-10$ $=3$	例	$(-5)-(-1)+(-3)-(-4)$ $=-5+1-3+4$ $=1+4-5-3$ $=5-8$ $=-3$	①	$10+(-7)-(-2)-(+4)$ $=10-7+2-4$ $=10+2-7-4$ $=12-11$ $=1$
②	$(-3)-(-6)-(-1)-(+5)$ $=-3+6+1-5$ $=6+1-3-5$ $=7-8$ $=-1$	③	$8+(-9)-(+15)-(-3)$ $=8-9-15+3$ $=8+3-9-15$ $=11-24$ $=-13$	④	$(-1)-(-2)-(-5)+(-4)$ $=-1+2+5-4$ $=2+5-1-4$ $=7-5$ $=2$
⑤	$5+(-9)-(-2)-(+4)$ $=5-9+2-4$ $=5+2-9-4$ $=7-13$ $=-6$	⑥	$10-(+3)+(-3)-(-12)$ $=10-3-3+12$ $=10+12-3-3$ $=22-6$ $=16$	⑦	$(-6)+4-(-8)+(-7)$ $=-6+4+8-7$ $=4+8-6-7$ $=12-13$ $=-1$
⑧	$(-1)-(-2)-(-4)+(-1)$ $=-1+2+4-1$ $=2+4-1-1$ $=6-2$ $=4$	⑨	$23+(-4)+(-15)-(-20)$ $=23-4-15+20$ $=23+20-4-15$ $=43-19$ $=24$	⑩	$(-3)-(-4)-(-7)-(+1)$ $=-3+4+7-1$ $=4+7-3-1$ $=11-4$ $=7$